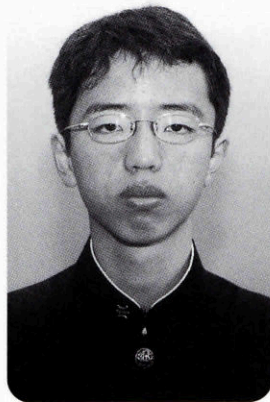


長門市制施行50周年

中学生の部 最優秀 僕の考える長門の未来

俵山中学校 2年
浜田 茂明



僕の長門の未来予想図には、便利になった生活環境と豊かな自然環境が存在する町になっていくと考えます。また、そうあって欲しいと願っています。僕は、最近、特に長門の自然について少し興味をもつようになりました。それは、大阪の伯母が長門に帰ってきたとき話したことがきっかけでした。

「子供を育てるのなら、長門みたいなところがええね。」

大阪に住んでいる伯母が、久しぶりに帰ってきたときにこんなことを言いだしたのです。僕はすかさず、

「でも、長門より大阪の方がいろんなものもあるし、いろんな場所もあるから子育てにも何かと便利じゃないん。」と聞き返したら、伯母は、

「確かにいろんな人がいて、物も場所もあって便利なんだけど、大阪は空気は汚いし、自然もあんまりないし、それに比べて長門は、今も自然が多いか

らね。」

と言ったのです。僕はそのとき、初めて都会の人から見れば、長門は、自然が多い土地というふうに見えるのだと思ったのです。そして、僕は、そんな長門に住んでいることに、誇りをもつとともに、このままでいいのだろうかとも思いました。

そんなことを考えていると、僕の心の記憶に残る長門市の自然が一気に甦ってきたのです。右を見ても左を見ても小高い山に続いていく田んぼがあり、夏には蛙の合唱とともに広がる一面の青田、それが秋になると米が実って、黄金色の風景が広がるのです。季節を感じ取る一番の風景でした。春や夏になって、川に入ったときの懐かしいどろの感触。手づかみで取れもしない魚をびしょぬれになりながら追いかけたものでした。磯の香りとこれでもかこれでもかと僕の泳ぐ場所を占領している海藻群、いつも僕が泳ぐ横で、魚が泳ぐ清らかでどこまでも続く豊かで青い海。冬には、荒々しい怒とうを響かせ自然の脅威を知らしめる荒れ狂う海。幼い頃の記憶は、伯母の話と重なってどんどん美化されていくのを感じていました。

しかし、現実が変わってきているのです。自分の家の周りの自然だけでも、昔と比べると、確実に減っています。例えば、昔は、田んぼだったところが、埋め立てられ、たくさん家が立ち並んでいたりします。家の近くの川も河川工事で整備され人工的なものになってしまいました。さらに、家からも眺

望できる只の浜には、大量のゴミが打ち上げられ、総合的な学習の調査でもあったけれど、今の状況では、とても「ポイ捨て禁止条例」は機能しているとは言い難いし、それによる罰則等も、もつとはつきりとしなければならぬ状態ではないかと思うのです。地元の人暮らしやすくなることと、観光業としても繁栄していかなければならぬことを考えると、便利で豊かにしていくという生活環境作りと同時に、長門市の自然に触れて心が癒されたと思える、自然環境の保全の両面から、長門市の未来を考えていかなければならないのではないかと思います。自然が作り出したものには、いくら人間が知恵を出して考え作り上げててもかなわな

と思うのです。では、どうしたらよいのでしょうか。僕の考える便利で豊かな生活環境と自然環境の保全というのは、自然を第一に基盤とした町作りを行うことと、四人に一人が六十五歳以上の高齢者である町としては、福祉を重点に考えた町作りが必要だと思えます。現在のままでも十分、商業圏と住居圏、文化圏など、比較的さまざまな分野で町がまともって作られています。僕の目で見てもつと理想に近づけるためには、メインストリート以外の気になる道路の段差や歩道の幅の点検と改修、バス路線やバス停の設置の距離などの検討をし、自家用車を利用しない僕達やお年寄りの方々が、どこからでも行きたい場所に行けるような乗り物を考えてみてはどうでしょうか。また、公園の建

築が流行していたときがあったようですが、まだ施設を作るのであれば、自然を切り開いてばかりいないで、自然そのものを活用したものを作ってはどうかでしょう。山を切り開いて遊具を置くのではなく、山や海そのものに向き合えるような公園や施設であれば、自然を破壊せず、自然に対するありがたみも感じられるのではないかと思います。

優良

- 安森 敦子 (通中3年)
- 辻野 麻樹 (仙崎中1年)
- 末永 孝幸 (深川中大畑分校2年)
- 本田 光樹 (俵山中3年)

佳作

- 山下 瞳 (通中3年)
- 深水 由香 (仙崎中3年)
- 小池麻衣子 (深川中3年)
- 木村 尚寛 (深川中大畑分校2年)
- 本田 翠 (俵山中3年)

【学校・学年は平成15年度・敬称略】